

Next Vision Japan symposium

連続講演会 芸術と文化を語る



匠の工芸技術など、
日本の良き伝統が現代に受け継がれる街、高岡。
この地域の特性を活かした独自の取り組みから、
まったく新しい価値が見えてきます。
Next Vision Japanでは、
人とアートの本質的な関係を見直し、
知性と感性を融合させる、
世界が求める日本をつくる
芸術と文化について考えました。

コーディネーター：
伊東 順二
富山大学芸術文化学部教授



講演会 I

「幸せ育児教育産業」への新出発
日時：10月17日（水）14：00～16：10
講師：葛西 健蔵氏
アプリカ育児研究会理事長
アプリカ葛西株式会社グループ代表

乳母車メーカーを創業し、いち早く乳幼児医学の専門性の必要性を説き、東京女子医大に乳幼児専門の医学研究所を開設した葛西氏。文化的にも、アプリカ育児研究財団を創設、育児についての多方面からの啓蒙を行うだけでなく、手塚治虫財団理事長として、手塚作品の保護を支援するなどオピニオン・リーダーとしても知られている。その葛西氏に乳幼児期からの文化教育の重要性と赤ちゃんの人格を認め、適切な心理環境を整えることが社会の健全な発展に繋がるという持論を展開していただいた。



1926年大阪生まれ。1945年10月終戦により閉鎖していた父の会社を復興させるため学校を中退し、社長に就任。2年で復興を果たす。1947年葛西工業所を設立し、育児器具の開発、販売を開始。1977年アプリカ葛西株式会社に改名。Apricaを世界の育児器具の名ブランドとして確立。1996年には総合社会福祉施設「アプリケア」を建設し、国内外から大反響を得る。育児の神様と呼ばれる、内藤寿七郎博士、手塚治虫先生（漫画家）とともに提唱した「あたたかい心を育む運動」は日本のみならず、米国、中国にも輪を広げる。勲五等瑞宝章など表彰多数。



講演会 II

「芸術とは何か」

日時：10月29日（月）14：30～16：40

講師：千住 博氏

日本画家・京都造形芸術大学学長

日本画家で京都造形大学学長千住博氏に次世代のアーティストへのアドバイスをお聞きした。

日本の美学、表現の粋を何処に見るか、時代的な表現をどう取り入れるか、アーティストとしての心構え、日々鍛錬すべきことなど、日本画の視点から日本発のアーティストが意識すべきことを的確に指摘していただいた後、本学学生、教員とのディスカッションが行われた。世界的に活躍する時代を代表する画家の全ぼうに触れて、学生たちにとっては将来への大きな示唆となった。



撮影 三戸建秀

- 1958年 東京都に生まれる
- 1987年 東京芸術大学大学院博士課程修了
- 1995年 第46回ヴェネチア・ビエンナーレで、東洋人として初めて絵画部門での優秀賞を受賞
- 2002年 大徳寺聚光院別院の襖絵初公開
第13回MOA美術館岡田茂吉賞絵画部門大賞受賞
- 2003年 グランドハイアット東京に高さ3m×横幅2.5mの壁画制作
- 2004年 羽田空港第2ターミナルのアートプロデュースを手懸ける
- 2005年 ミラノサローネ・レクサス「L-finesse」展にアートプロデューサーとして参加
愛・地球博「世界無形文化遺産 能・狂言のすべて 咲きほこる伝統」の舞台演出に参加
- 2007年 フィラデルフィア「松風荘」襖絵公開

講演会は、すべて高岡キャンパス講堂を会場に開催、一般からも多数の参加があった。

講演会Ⅰの第二部として、医学部看護学科教授・永山くに子、人間発達科学部教授・諸岡晴美、芸術文化学部教授・丸谷芳正、高岡短期大学部産業造形専攻・砂子田祐佳、竹内希が加わり、パネルディスカッションを行った。

講演会 III

「環境から考える建築デザイン」

日時：11月13日（火）18：00～20：00

講師：隈 研吾氏

建築家

日本のみならず世界を代表する建築家隈研吾氏に来校いただき、「Next Vision Japan」をテーマに氏の建築論を語っていただいた。建築を考えるにあたって、トポスの視点で環境や地域文化を観察し、それらと建築の個的なメッセージにおいてを同調させることの大切さや造形的な思考だけではなく、哲学的な論旨を創作確かにすることの重要性を分かりやすく説明された。環境問題への取り組みが各分野で必要不可欠の命題になっている現在、建築のみならず造形一般において大きな示唆を得た講演だった。



1954年横浜生まれ。1979年東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、隈研吾建築都市設計事務所主宰。2001年より慶應義塾大学理工学部教授。1997年「森舞台 / 登米町伝統芸能伝承館」で日本建築学会賞受賞、同年「水 / ガラス」でアメリカ建築家協会ベネディクタス賞受賞。2002年「馬頭町広重美術館」をはじめとする木の建築でフィンランドよりスピリット・オブ・ネイチャー 国際木の建築賞受賞。